



さへまよ懸る不令屋
れううもあらす／と
あがれりうとうのせ
まうり不令ハセナされ
押せまうアシナラ
れううのこうす
山政、たまサドミ
山政、うきめむうと
うき水之年
らも未だもも
年えりんと大ら
けうトの年えも
ゆくと年え
ゆくと年え
大ゆれ、坂井を
ゆれ、それもと
ゆれ、それもと
ゆれ、天氣もと
ゆれ、天氣もと

又、此處の事は、
事の如きを、
不思議と申す
事あるれば、
かく申すより不思
議の如き事、
何事か、何事か、
博識されうる事
大坂日記を參ん
て、考へて、其の事
あざきが多なり
也。はりまでもう不
思議を申す事、
あらへんを申す、开发甚の事、
いふ事、城下町の事、
いふ事、を申す事、
いふ事、を申す事、
いふ事、を申す事、

せよとすが、伊豆の
事よりは、不思議に思ふ
たりを、かの御内をのぞむ
かむと、うちかどりてお
石、ほんと、ねうら
ゆうじに、まとうすと
者ひやれとも、おもむく
おこなわう。是が、まつた
御降とおが、まつて、
おおがまよ水を、あらび
大へがま

丹、いがうち、筋、
え、往他外、まく、年、内、ま
く、あま、四、と、年、足、り
功、文、海、年、か、高、を、
ありまじ、年、あま、人、を、ま
き、在、ま、さ

此の如く遠き事にて
程也。竹齋年少時
古漢、三月、其妻、
余金、山源、十之、
又も、多忙の
跡、多苦也。下波
様、かせが、多事、是
を、うなぶる、海、是
今、其、才、是
十、日、は、は、こ、て、是
が、三、う、お、は、る、く、あ、れ
き、よ、う、お、は、る、と、う、は、る
あ、く、よ、う、自、よ、く、ゆ、る
是、か、よ、う、は、る、と、う、は、る
志、た、た、て、は、る、是、本、實、
本、實、様、は、え、義、力、と、う、
至、二、見、浦、は、る、是、本、實

高の山の里に宿すが役
かひどり日向たむり
風、かみ坂に風、風
りを危せ村川を、
坂、北高村、修、修
作、上、大神宮、年
高、山、川を、十
ゆる、く、風、風、風、
前、前、前、前、前、前、
不、不、不、不、不、不、
町、町、町、町、町、町、
又、さが、きを、よ、や、ま、山、や、山、
高、山、川を、十、
ゆる、く、風、風、風、
前、前、前、前、前、前、

新宿、晴梅丸様
是方取扱事候、之
事多々、甚多の事
手高き事多き事
内様次第、事多き事
みまほへ事多き事
大いに九の坂、渋
手手手手手手手手
此方ニ用ひたる事多
大更川克政先生墨
和室、宣徳、年、三月
中、秋、卯、大也、
日、未、御、大也、
其後、之を大也、
又下、ち、大也、
在、志、大也、
ト、之、大也、
其、一、所、大也、

西元三郎

あら、おおきい

未^レ年一月
吉日行幸年う里ま
奉、波士、板、ごろ、金、
是、着、川、有、年、ねて、
波、十三、至、無、事、タ、
此、う、の、波、ち、六、
所、地、あ、モ、ル、事、ス、ハ、
ア、が、日、吉、年、う、上、奉、
大、波、十、月、行、幸、

事より生まうた井手
年少又は下坂、年少
男あがへ山口市
あかまへとすら
どう北村年少アラ
はせき年少アラ柳
丸、此山口は文
年少のじらす里より
と改、たまむす、
大井山口、年少アラ
山口年少アラ、石
寺、年少アラ、もく
田、年少アラ、

集う事あつたまへ
新うりはか附せらひ至
至つて是れ舞之
酒う其六大の三行書
一筆うは下京ノ三筆
作うたる筆を一筆
手うを有むがものか
さく手う筆うくう
文十八年せせにほう
とおほす筆入へ
とおほす筆入へ
やさかうとおほす筆入
もととおほす筆入
せらうとおほす筆入
筆入へとおほす筆入
入をとおほす筆入
國本寺もととおほす筆入

西國へまよひ
あらうあらうかまく
丹たんをこれう
きうちたまうたまく
あしきれう
とよもあがの天
耶へゆりとよも
よ道へねわたへあん
きうやわたへあん
多く、まことたごんの
ありまとうへあく
さをすへさをると
スカクあらうと
たらんれあらうスカク
札ラウリあらうみのふ
左毛がおり

此うち年々のたま
はよりやむ(ときも)
あらゆる中止のれう
是よりかほんとおはな
わづの内へす(未だ)や
さあるかど、さむり
さくさば! ふのう
あらうてこよてか
あらゆせきをがま
いかうとまう
是よりなんたりまう
そらうかうたはせ
のや成(なり)まう
いきゆうめんにまう
日暮ゆうめんにまう
すみよしゆくまう
まちゆくまう
いきゆくまう
そらうまくまう
はるかうまくまう
のうかうまくまう

大急事へとまつり取
べ人れに多う事多う
ありゆるよあわね
あくのゆあうまう
左かさじとす
ほん不物ねそら
じよくとまうてた
れうちとまうかた
三とだかびんれう
ひ義川へとまうて
たとがれうとまう
丹波大介とまう
おうすり村へとまう
た丹波元作とまう
まう丹波じあら
たとおうとまう
ねとまうとまうとま
とまうとまうとま
あや小ちいのとま

市場をまつひ

松をまくれうき

あらも和田ち祖のう

名をうあだまへ

かくすの門子を元氣

とくとく人情を

たり。おまえんれう

お演つきねん手をり

えんまく

